トピックス Topics 中原寺の菜園・浄土園『秋の収穫を終えて』

昨年11月3日(火)文化の日に、浄土園では「さつま芋」と「里芋掘り」を実施しました。心配していた天気もさわやかな秋晴れに恵まれました。

前住職、前坊守、ご住職、坊守さん、壮年会4名、婦人会4名、唯花ちゃんとそのお友たち2名と慈俊ちゃんの16名が午前10時に集合、良い天気を喜ぶ挨拶で作業が始まりました。

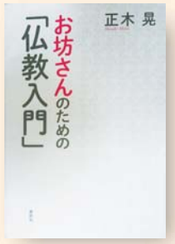
さつま芋の根元にスコップを入れ、つるを子供たちが引き上げると赤い芋が出てきます。わいわいキャーキャーと大喜びです。また里芋の親芋に子芋が沢山付いているのには不思議な様子です。芋たちもお日さまと雨のおかげで立派に育ち、私たちにその恵みを与えてくれました。

収穫を終えて、野菜の命に感謝して、美味しく頂きました。 お芋を火の中に入れ、ほくほくに焼けたお芋をふうふうしながら口にほお張り、またバーベキューも楽しみました。

収穫を喜び楽しい一日でした。 合掌

（村田太喜夫 記）

本の紹介：正木　晃『お坊さんのための「仏教入門」』(2013年1月(株)春秋社、1800円+税)



今、全国の仏教寺院で、檀家の高齢化や住職の後継者不足によって、住職が兼務だったり不在だったりするお寺は、全体(7.6万カ寺)の16%もあるという(朝日新聞2015･10･11)。 本書の著者(専門:宗教学、慶応大学講師)は、現代の仏教界が直面する難題として、次の5項目をあげているが「これらの難題が、互いに絡み合って、そう簡単には解けません」と述べている。

◆葬儀離れ･墓離れ･寺離れ ◆僧侶の「品格」 ◆お寺の活性化と寺庭ジテイ婦人の役割
◆近代仏教学の功罪 ◆公益法人問題

あとがきで、「大半のお坊さんは、自分たちが危機にあることわかっていても、この状況をどうすればよくなるのかが、わからないところが問題である。危機の当事者には、その本質が見えにくいものである。筆者は、仏教の研究者であるが、お坊さんではない立場は案外便利であり、この利点を最大限に生かして書いたのが本書である。」としている。

本書の構成は以下の通りである。日本の仏教･お寺･お坊さんをとりまく様々な状況を知りたいと思う方には、一読をお勧めしたい。**第1章**：葬儀(仏教は葬儀から始まった)、**第2章**：女性と仏教をめぐる課題、**第3章**：大乗仏教の立ち位置、**第4章**：東日本大震災から見えてきた仏教のありかた、**第5章**：僧侶の品格、**第6章**：現代仏教の重要課題(お寺の公益性を考える、脳死は人の死か?、子育てと仏教)。

新人会員紹介

この度、壮年会に入会させていただきました盛田好一と申します。

45年程前より、門徒に加えさせていただいて居りましたが、仕事の忙しさにかまけて諸行事にも元旦修正会の他はあまり参加できずにおりました。

4年程前に仕事を引退し、自由時間が多くなり、様々な未知の分野に興味を向けられるようになって来た中、仏教についても関心が増し、少しは勉強するようになりました。

今の一番の関心ごとは、“生死即涅槃”、“煩悩を断ぜずして涅槃を得る”についてです。 この煩悩まみれの私がまことの信心を得ることができれば、領解(りょうげ)されることでしょうが、それがなかなか…。

今後は、壮年会を通じても、色々と学ばせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（盛田 好一 記）

訃報のご案内

山根 信治 様/平成28年1月に逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します

編集後記(壮年会だより:平成28年4月「春号」会報)

住職はじめ多くの方の投稿を頂きました。 また嬉しいことですが、新会員の盛田さんに自己紹介を書いて頂きました。 皆様の忌憚のないご意見をお待ちしています。

○編集委員：河合功・高木史人・福島秀昭（レイアウト）　○印刷・送付：杉田善久

Cyugenji Sounen-kai Dayori

壮年会だより

平成28年4月 春号　中原寺仏教壮年会だより Vol. 18

じゅん菜池の桜も散り、桜前線とサクラ狂想曲はどこまで北上したでしょうか。仏教徒にとっての花といえば、やはり正信偈にもあります分陀利華(白蓮華)です。

宗派は違いますが、中山法華経寺に八大龍王の池というのがありまして、7月から8月にかけて、阿弥陀経にありますような見事な蓮の花を咲かせます。

今年も、「弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとぐるなりと信じて念仏申さんとおもいたつこころ」の一年になりますように、よろしくお願いします。

【住･職･閑･話】

いつまでも若いと思っていた私も、今年で四十歳を迎えます。 以前はご門徒さんのお子さんから「お兄さん」と呼ばれていたのが「おじさん」と言われ始め、少しずつ目立ち始めた白髪に多少なりともショックを感じます。 「四十にして惑わず」との孔子の言葉のように自分の生きかたに迷いがなくなり、地に足をつけて日々を過ごしているかというと、なかなかそういうわけにはいきません。

室町時代の禅僧、一休さんにまつわるこんな話があります。

ある日、お弟子さんを連れてお檀家さんの家に法事に行く道すがら、うなぎ屋さんの前を通りました。

うなぎを焼く香ばしくいい匂いを嗅いだ一休さんは、「旨そうだなあ」と一言つぶやきました。 それを聞いていたお弟子さんは、「出家している身でありながら、うなぎが旨そうとは不謹慎ではないか」と驚きます。 その後の道中や法事の最中も、そのことが頭から離れないお弟子さんは、とうとうお寺に戻ってから、一休さんに問いただします。

すると一休さんは「なんだ、お前は未だうなぎのことを考えておったのか、おまえは未だあのうなぎ屋の前にいるのだな。 わしは、あれから美しい花を見つけ感動した。

おまえの心はあのうなぎ屋の前から一歩も動いてなかった、ということは、あの花の美しさも目に入ってなかった、ということだな。」と言われたそうです。

私たちはついつい、あの時にこうしておけば良かったと過去を悔やんだり、将来のことを憂いてとり越し苦労をしたり、あるいはあの頃はよかったと昔を懐かしがったり、明日になれば良いことがあると現実から目を逸らすということを繰り返しています。

しかし、それは「今」をおざなりにして生きているということです。 過去や未来にばかり目が向いていると、一休さんのお弟子さんのように目の前の幸せに気づくこともできません。

諸行無常で思うようにならないこの人生において、今このときを大事に、今自分でやるべきことを、やれることを精一杯努力する。 そして、その結果がどうであるかを恐れず、力いっぱい今を生きること、それが念仏に生きる人の生活だと思います。

1月の行事報告 January

◆平成28年度中原寺仏教壮年会年次総会を終えて

平成28年1月24日(日)午後2時30分より、本堂のご仏前を荘厳させて頂き、壮年会年次総会を開催至しました。

はじめに、恒例の錦織春海さんのお手前で、「お供茶」のご接待を出席者全員で頂き、壮年会の新しい年が始まりました。

まず越田修二郎さんの演奏で真宗宗歌、正信掲を村田の調声でご唱和させて頂きました。

福島道宏さんの司会で総会へ。 石井保会長の年頭の挨拶で各議題に入り、平成28年度総会資料(全10ページ)に基づき、平成27年度の活動報告･決算報告･横田豊一さんより決算監査報告がありました。 続いて平成28年度目標と方針案、行事計画案、予算案を石井会長が説明しました。 引き続き担当役員の説明と質疑応答を行い、その結果全会一致で了承され、平成28年度の総会を終了しました。

その後、聞法会館に移り新年懇親会を開催しました。 今年は婦人会役員4名の方に参加を頂きました。 前田さんと水沢さん、お二人による日本舞踊をご披露して頂き、懇親会に花を添えて頂きました。

また、前住職は落語「饅頭怖い」を、前住職のご希望で今年はお酒が入る前に(酒が入ると不埒者はお話しに耳を傾けようとしません)披露され、流暢な噺しぶりに皆聞き入っておりました。

この一年もお念仏と共に壮年会一同お寺に集い、ご聴聞に励むことを念じます。 合掌

（村田 太喜夫 記）